

令和6年9月4日（水）令和6年度第4回富山県成長戦略会議 議事要旨

<開催概要>

- 1 開催日時 令和6年9月4日（水）15：15～16：45
- 2 開催場所 県庁4階大会議室、オンライン
- 3 出席者（五十音順）

安宅 和人	慶應義塾大学環境情報学部教授 LINEヤフー株式会社シニアストラテジスト
朝比奈 一郎	青山社中株式会社筆頭代表CEO
齋藤 滋	富山大学学長
高木 新平	株式会社ニューピース代表取締役CEO
土肥 恵里奈	株式会社ママスキー代表
中尾 哲雄	富山経済同友会特別顧問
中村 利江	エムスリー株式会社取締役 エムスリーソリューションズ株式会社代表取締役社長
藤井 宏一郎	マカイラ株式会社代表取締役CEO
藤野 英人	レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長CIO
前田 大介	前田薬品工業株式会社代表取締役社長
藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所主席研究員

<議事次第>

- 1 開会
- 2 挨拶
富山県知事 新田 八朗
- 3 議事
 - （1）「人口未来戦略」提言案について
 - （2）今後のスケジュール

1 開会

2 知事挨拶

- ・本日も大変ご多用のなかお集まりいただき、感謝申しあげる。
- ・本年度、成長戦略会議では、重点的なテーマとして「人口未来戦略」について、特に、関係人口の拡大・深化を目指すことを切り口として、すでに3回議論いただいた。大変熱心にご議論いただき、感謝申しあげる。
- ・前回の会議では、本県のポテンシャルが高いということで、「癒しの環境」と「子育て環境」の2つの領域で、どのように関係人口を創出していくかという「仮説モデル」に基づきご議論をいただいた。
- ・これまでの会議で皆様からいただいたご意見をもとに、藤井宏一郎副座長に成長戦略会議の提言の案を取りまとめていただいた。本日は、今月末のとりまとめに向けて、この提言案についてご意見を賜りたい。
- ・県庁内に設置した「富山県人口未来構想本部」では、これまで4回にわたり少子化対策や移住、産業政策や観光振興、外国人の活躍などをテーマに、課題と今後の方向性などについて議論を重ねている。前回の第4回本部会議では、成長戦略会議での議論を報告・共有した。引き続き、取組みを検討していく。
- ・委員の皆様には、本日も忌憚のない、突き抜けたご意見をいただければ幸いである。

3 議事

(1) 「人口未来戦略」提言案について

(藤井副座長より資料1に基づき説明)

(2) 今後のスケジュール

(事務局より資料2に基づき説明)

【齋藤委員】

- ・海外からITに詳しい方に、長期間地元に残まっていたいただき、地域から色々なことを発信していただく。それから、ある時期は地域の企業にも勤めていただく。それから、なんと言っても大きいのは、スタートアップ企業にも尽力していただけるという形は、非常にありがたい。
- ・デジタルノマドのこととは離れるが、外国人の留学生のことについて、最近の情報を

お伝えしたい。8月30日に国立大学の協会で、将来的な国立大学のあり方の中間とりまとめが出た。この先、急激な少子化に向かいます。人材力というのは数と質の掛け算になるが、人の数がどんどん減っていくため、質のレベルを上げないといけないということで、大学院の博士課程の強化、研究力の強化、それから外国人の留学生をどんどん積極的に取り入れるという基本的な方針が決まった。それはかなり大規模な変革で、実は、こういった国立大学のグローバル化については、未来教育創造会議の2次提言も出ており、今後14年間で日本から海外に留学する派遣留学生を年間50万人、受け入れ留学生を年間40万人に拡大する目標が設定された。2040年には少なくとも国立大学の総定員において、30%の留学生を受け入れる形になる。富山大学は今1万1000人ぐらい学生数があるので、約3300人の方が海外から来られる。世界的に優秀な人材の獲得競争にこれからなっていくと思うが、積極的に留学生を受け入れるためには、グローバルな視点から見て、魅力的な大学並びに学びの場をつくりあげることが求められる。

- ・これに関連して、留学生が学生時代および就業後も安心して暮らせる学内と地域社会による環境づくりも重要な課題であると指摘されている。2040年になると、18歳人口が今の100万人から70万人に急速に減っていく。30万人を留学生で埋めざるを得ないという形になってくる。留学生をうまく育てて、地域で親和性を持っていただいて、地域の色々な企業でもインターンシップ等を行い、地元の企業でも働くような、そういった働きかけが非常に重要だと思っている。
- ・デジタルノマドの時でもフリーのオープンスペースを利用するなど、彼らにとって居場所のいいような環境をつくりあげることも必要だが、同時に、海外の留学生がこれから急速に増えてくるので、彼らに本当に富山はいいねと言っていただけるような体制づくりも今から準備しておかないと遅くなると思う。
- ・だから、その部分も少し追加していただきたいというのが私からの依頼。8月30日にあったばかりの最新情報なのだが、そういう形で国立大学全体が急速に変わろうとしている状況なので、少し入れ込んでいただければ。海外の方が本当に安心して暮らせる、それから地域の文化等も理解していただいて、そういう交流を持っていただくようなものをつくっていただきたい。

【土肥委員】

- ・追記いただきたいほどの話ではないかもしれないが、子育てのところに関する部分で、富山県は長く待機児童ゼロを謳ってきたが、最近は全国的に待機児童の問題はだいぶ解消されてきている。最近の新聞か何かにも、確か全国的にあと2000何人ぐらいということだったので、待機児童の問題は大分収束してきていると思うのだが、一方で、コロナ禍以降をみると、産後鬱になってしまう女性が増えていると思うし、元々10数%だったのが、今3割ぐらいの女性が産後鬱になる可能性があり、現実として産後鬱になっている方が多い。一旦鬱になってしまうと、その後、子供側にとっても親にとっても、社会的な活動が困難になっていって、富山の豊かな教育環境だとか子育て環境というところも感じられなくなってしまう可能性もあるだろう。
- ・なので、難しいことを言うかもしれないが、これまで待機児童ゼロと言ってきた富山県の新しいゼロ施策が、例えば産後鬱ゼロみたいなことを言い切れる県になるといいのではないかな。そうすると、こどもまんなか社会みたいなところの富山の良さを全ての子どもたちに感じていただけるようになり、ヘルスケアのところも含め、全部繋がってくると思うので、富山県は産後鬱ゼロの県ですという風に言えていくといいと思った。

【高木委員】

- ・これまで皆さんが、オケーションというか人生においてのシーンの中で、富山と関係を作ってもらえるチャンスがあるのではということで、色々出してもらって、改めてこうやって並べて見た時に、富山の優位性になり得る部分に優先順位があるのではないかな。
- ・一般的な行政の会議だったら、出た意見を集約して、全部ありがたい意見なので並べておいた方がいいというのもありつつ、戦略という割にはシャープではない感じもあり、どれが勝ち筋があるか、せっかくなので皆さんで話せるといい。例えば、今の土肥さんの話でもあったが、じゃあ子育て環境とか教育環境が非常にいいのかと言われたら、そんなにいいかな、わざわざ来たいとなるかとか。
- ・モデルEのコミュニティなども結構狭いだろう。県でやるという割に、民間がやっている以上の動きになるのかなと思っている。本当にAからFまで、全部同じぐらい力を入れてやっていくといことなのかというのを、せっかくなのでディスカッションで

きた方がいい。

【朝比奈委員】

- ・ 今高木さんがおっしゃっていた意見は、僕も非常に感じるところがあるが、一方で、この手のものは色々書いていないと、変な批判をされたり、なんでこれを書いていないんだとか、ああだこうだ言われるリスクもある。書き物でエッジを立てて全部削ってこれだけをやるとするのは企業戦略としてはすごくいいと思うが、行政となると、なんで書いていないと批判されたり足をすくわれないように、一応書き物は書き物としてこうしておいて、実質的なところでどうエッジを立てて、どこに予算を重点的につけて、どうするかということを考えたらいいいのかなと思った。
- ・ 今、半導体は、すごく悪く言うと補助金漬けにして各地でやっているが、やっぱり北陸の地域は水の良さとか、すでに結構インフラがあるところがあるので、本当は活用した方がいいという思いはある。そういうところを少し入れていただいているが、そんなところにそれなりに力をはったらどうかと思うが、実施レベルでそのメリハリをつけていく気がする。

【藤野委員】

- ・ 朝比奈委員とほとんど同じ意見だが、多分このAからFまでのポートフォリオがあって、このポートフォリオにおける重点配分の仕方によって変わるのかなと思った。この分析そのものに対して、成長戦略会議の議論が反映されているので、かなり濃密な議論が反映されているのではないかな。
- ・ なので、この読み物全体を見ると、僕らが何を強いと思っていて、どこに勝ち筋があるのかという切り口を提示していると見ればよいと思う。最終的に県やその地域のリーダーが何を取っていくのかの意思決定があると思うが、まずこれを県の人が読んで、それぞれに関連している人がいると思うので、それぞれのリーダーが僕はCをやるとか、僕はDをやるとかいう風になればいいと思う。勝ち筋の提示はすごく大事で、かつ、このAからFまで関連している人たち、様々な人たちのプロがいるという所があると、この勝筋で私たちは行こうという風になることが大事。
- ・ ただ、成長戦略会議で、かつ予算がある県の組織ということになると、これはまさに高木さんがおっしゃっている通り、切れ味鋭く、限られた予算の中で効果を発揮するという面で見れば、予算の重点配分というところでやっていくのかなと思う。なので、

AからFまでであったのだが絞り込んでAとBにするということはせずに、これをやりながら、最終的にこの次の段階でどれに重点投資をしていくかという議論をしていけばいいのかなと思った。

【中村委員】

- ・私が一番いいなと思ったのは、デモグラで切っていたところ（20代、30代とか女性とかで切られていた）が、もうそういう時代ではなくSDG s の時代だし、行動パターンで切られたというのは非常に分かりやすく、すごく綺麗にまとまってきたと思う。
- ・朝比奈委員、藤野委員が言われているように、このAからFは全部やりたいことだと思っている。戦略としてはこのAからFは全部ありだと思うが、実際進めるためには戦術があると思う。戦術として、全部やりたいけど、まず着手するのは何なのかということが大事なのではないか。今一度AからFを見たところ、富山がもうすでに勝っていると富山県人は思っているが、他の県の人や海外の人が富山はこれがすごいよと思っていないところを知らしめるのがとても大事だと思った。
- ・ヘルスケアのところで、富山だとすごい診療が受けられると齋藤委員がおっしゃっていたようなことを、県外の人には知らない。そんなことが富山でできるというところを今一度ちゃんと知らしめながら、その優位性を活かすことが大事だと思うし、水のことも、私の友人で、富山出身で、名古屋とか大阪とか東京に働きに行って肌荒れした人はすごく多かった。本当に富山の水は美容にとってもいいんですよということが、県民しかまだ知らない。県外の人に知らせることでよく分かっていただけることというのは、もっともっと戦術として活用される優先順位を高めてもいいのではないかな。

【安宅委員】

- ・デモグラの議論でなくなったのは2・3歩進んだと思う。結局、場づくりが大事。私みたいな人間がそこへ行って仕事をしようと思う場づくりが本当のフォーカス。これらは富山の強みのあるファクターだと思うが、これらが重なりあっても、わざわざ行こうと思う場づくりにフォーカスしないと結局今言っているものは全部絵に描いた餅になると思う。場づくりなんだというところの打ち出しがないのが非常に気になる。
- ・富山に住んでいらっしゃる方は割と市街地区に住んでいる人が多いと思うが、そこに僕やその仲間の多くはまず積極的に行かない。それだったら東京の都心にいた方が楽

かつ楽しい。

- ・富山の誇る非常に美しい空間で豊かな気分と共に、3次救急も2、30分で到達できて、よくわからないぐらい気持ちがいいんだけど、仕事もはかどるという空間が欲しい。風の谷的な言葉で言うと、絶景がある場所、とても気持ちのいい空間が必要。だから、前田さんがやられているものが一番多分近くて、そういう場を大量につくるということ。これまで富山県の施策的には捨てられた土地を我々の巨大なアセットにして、空間として整備していくということを全面的に打ち出さない限り、これこそ絵に描いた餅でもなく、絵がない餅になって死んでしまうと思う。場づくりを都心部分ではないところに一気にちゃんとするという話を打ち出す必要が相当強くなる。
- ・ここで1つ大事なこととしては、そのために派手に建物を建てるというのをやらないこと。建築というのは、内包するエネルギー量が巨大。大体、160㎡の2階建てぐらいの保育園か幼稚園みたいなものをつくろうと思うと、約200 t 強のCO2が排出される。そういうものを簡単に潰すというのは、全くもって未来にとって不幸でしかなくて、あるものをリノベして、新しいステイできるような空間につくり直していくというタイプの活動が非常に重要。
- ・例えば尾道に行くと、LOGというすごくおしゃれかつとてもいいホテルみたいなものがある。非常に眺めも良い。元々はただの市民住宅で、2人家庭用の住宅みたいなものを、世界的なデザイン集団につくり直してもらっている。富山のデザインも全日本的にとっても有名だが、そういう人たちの力を使ってそういうものをつくり、富山の都心じゃないところを全面的にしっかりとそういう場所にしていけば人は来ると思う。県庁の人と30か所ぐらい富山県内のそういう場所を回ったが、結構ポテンシャルの高い場所は多い。西も東もどこにでもある。そこをちゃんとそういう空間にしていくんだということをしつかり打ち出せばそれで終わり。
- ・そこに今言われているような、病気になっても死なないし、子供を連れて来ても教育もできるし、仕事もバンバンできると。バリバリのクリエイターがやってきても仕事ができると。そういう場所をただつくればいいだけの話。それは都心ではないということがとにかく重大で、富山はそこを全面的にテコ入れするんだということを打ち出せば、それで終わりなのではないかと思う。
- ・そこが今この議論に抜けている臍の部分で、場をつくるんだということをもど真ん中に置かない限り失敗すると思う。誰々をターゲットにするとか、その議論をいくらやっ

てもしょうがない。それはそうなんだけど、とにかく場。その人たちがいたいと思う、だったら仕事をやろうと思う場。その場所をつくれるかどうか、ほとんどこの議論はかかっている、そこを一番としてほしいと思う。

- ・アレグザンダーという人が、パタン・ランゲージという概念を作った。彼がハーバードの建築にいた時に、セミラティス構造という議論があって、非常に力のある場というのは2つも3つも4つも複数の意味を持っているという意味。ロジックツリー的に、ここは工場です、ここは住宅地ですみたいな一つの意味しかない土地は力を持たないというのが彼の言った結論で、結構これはソリッドで、本当に本質をついていると思う。世界的にこの議論はものすごくパワーを持った議論で、50年ぐらい経った今でも響いている。同じ話で、セミラティスな感じで複数の意味を持たせてそういう場をつくるというのがこの富山の一つの、人の求心力をつくる戦略であると。例えば滑川や上市や氷見の奥地とか、非常にいいところはいっぱいある。井波も非常にいいところがいっぱいあって、立山町もいっぱいあって、黒部の方もすさまじい眺めの牧場とか、ああいうものをちゃんと求心力にするんだということを打ち出せばいいんじゃないかなと思う。

【藤井副座長】

- ・おっしゃっていることは、様々な物理的な地域をいくつか指定するというか、そこに注力してその物理空間をつくっていくと。報告書に書いてあるような、様々な転勤族コミュニティをつくりましょうとか、あるいはコワーキングスペースを増設しましょうとか、町のコンシェルジュだとか地域交流の場を増設しましょうみたいな、県全体の色々なところにあるランダムなインフラの増設の話ではなくて、特定地域に集中させるという理解でよろしいか。

【安宅委員】

- ・そうではなく、そういうところがいっぱいあるということが大事。1か所じゃ全然意味がなくて、1000人単位で受け入れられるぐらいの場所をちょっとずつ作っていく必要があって、1個か2個の成功をすれば2個目ができて、2個目があったら3つ目ができる。いきなり大量開発したら破綻してしまうので、回るものをちょっとずつ増やしていく。

- それに繋がるような動きをしている人たちがちょっとずつ日本の中で現れていて、例えばSANUみたいなものはそうなんだけど、そういう人たちを呼び寄せるということもあると思う。
- 先ほどの齋藤先生のお話は結構重大だと思っていて、世界的求心力のある場所をつくるということ。少なくともAPACの領域、オーストラリアぐらいまでまるごと引き寄せられる空間をつくろうということだと思う。イタリアのアグリツーリズムに当時泊まったことがある人は分かると思うが、大体ああいうところは1人か2人は英語がペラペラ。ああいう人を作らないといけない。農家のお姉さんとか息子なのに英語がペラペラ。しかも、日本の農水省がやっている農泊と決定的に違うのは、超絶古い建物を直して、普通のホテルよりも快適ぐらいの空間になっている。農家にただ泊まるというモデルではなく、だから仕事ができる。普通にヨーロッパの人たちは、イギリスとかからイタリアに来て、1週間とか仕事をして帰っていく、家族とか連れてきて。そういう世界中の人を受け入れられるような人を育てるという教育の改革からしなくてはいけないし、今、20代、30代、40代でやる気のある女将さんとかお父さんとかもリトレーニングしなくてはいけない。
- そのために、せっかく齋藤先生もいらっしゃるし、大学の夜学習をやってもいいと思う。それに、デザイン的に空間をつくり直す必要があって、多くのこういう所はホテルになっていて、温泉とか、全然仕事をやる場所になっていない。全く空間の思想を変えなくてはいけない。ここで言われていることをやろうとしたら、つくらなければいけない空間のイメージをつくり直さないと絶対に失敗する。行きたくなるような空間を作らないといけない。それもただ遊びに行くのではなくて、本当にライフを送れる場をつくるというのが非常に重要だと思う。
- 場は建物ではない。建物もあるけど、そこにいとインスピレーションが湧いて、人とも出会うし、何か知らないようなことも起きる。その近くに行ったら、いい感じのお茶を飲む場所があって、知らない人と喋って、全然分野が違う面白い人とかもいて、そんな感じの場をつくっていかないといけない。それを1個か2個、まず拠点的にわかりやすいものを、すごくソリッドなものを例えば東西で1個ずつつくって、それをやりたい人を捕まえないといけない。ここに前田さんがいらっしゃるので、前田さんのところに1個つくって、周りにもちょっとつくる。成功が成功を呼ぶ。いきなり100個つくるとかは絶対に破綻するから、やめた方がいい。

- ・あと、新しい箱づくりも今の21世紀に向いていないので、やめた方がいい。環境負荷が高すぎる。エンボディしたエネルギーを使うというモデルでやった方がいい。

【藻谷委員】

- ・場づくり、居場所の種類がモデルによって違うと思う。デジタルノマドを本気でやるのであれば、まさに安宅さんがおっしゃっているようなことを、実際そういう場所に身を置いてから考えないといけないと思う。候補としては、岩瀬とか井波とか内川とか、なり得る場所は実は県内にあって、それは東京にはないような形でできるような気がする。海外にあるような形で。ぜひ追求していただきたいと思う。
- ・他のモデルで、私がこの中で一押しで勝ち筋だと思っているのは、転勤関係、転勤者をターゲットに関係人口を増やすということ。いわゆるプロみたいな居場所が必要かどうかはわからないが、彼らが集まって交流するようなソフト的な場所づくりが必要で、イベントでもいいが、定期的に、本来仕事にかまけて忙しくて出会わない人たちが、昔だとゴルフ場だとか飲み会とかで会っていたんだけど最近そういうのは全然やる余裕がないと。意図的に、あえて出かけてみようか、他の地域の人、会社の人と交流しようという場をつくる。家族の人たちも来られる場をつくる。海外留学中にそういう場をニューヨークがつくっている話を以前したが、そういう風なこと。これは安宅さんが言っている場とはちょっと違うオケージョン。機会を作ることによって、富山県はそういうことをケアしているぞと。ただいるだけではなくて、関係人口になってほしいと本当に思っていますということをぜひ進めたらいいと思う。上に行く（出世する）とそういう場が増えるわけだが、やっぱり下っ端で、若い時に何年か赴任して、つまらないと思って帰ってしまう人も大量にいて、そういう人を繋げることが転勤について有用だと思う。
- ・全く余談だが、実験として10月末に富山県の呉西を巡ってみるツアーというのを、私が理事長のNPOコンパスで考えて、40人ぐらいの人が2泊3日で能登と呉西を回ってみる。どうしてもシニアの人が多くなるが、どういう反応をするかをぜひ実験しようと思っている。この会が終わった後になるが、また何かの機会で報告させていただく。

【前田副座長】

- ・AからFはどれも必要なんだけれども、よく企業でやる4象限というものがある。緊急度と重要度みたいな話と、マーケティングの考え方でいくと市場占有率と市場成長

率を掛け合わせた色々なマトリックスがある。4象限を作ってどれからやっていくのか決めると思うが、いよいよ、第1象限、第2象限、どこにこのAからFを入れてやっていくのかみたいな話をしなくてはいけないのかなと思うし、基本的に関係人口を増やしていく時の1つはお仕事と産業だと思うので、そこは第1象限、第2象限に入ってくると思う。

- ・産業や仕事を作って関係人口を増やしていった時に、富山の1つの課題は、僕が観光業をやっていて一番思うのは移動。やっぱり規制緩和はちょっと必要で、白タクの問題も含めて、ライドシェアの問題も含めて、こういったところの規制緩和の先進地域になっていくと、より仕事しやすく、住みやすくなると思うので、疎空間を繋ぐ毛細血管としてのライドシェアみたいな話の規制緩和が最先端で進んでいる県みたいなものは1つ突破していけるかなと思う。成長戦略と言っているので、成長の阻害要因はほぼ規制だと思うので、そういうところを突破できればおもしろいのではないかな。

【安宅委員】

- ・疎空間はオンデマンドしかない。それしか計算上合う方法がない。岩瀬みたいな町は全然大丈夫だが、問題はそうじゃないところ。

【藤井副座長】

- ・今まで皆様から出た意見では、ここで特定のものを落とすということはせずに、一応AからFは残しつつ、その重点をどこに置くかというものは議論していく必要があると。今おっしゃったようなマーケティングの視点、マトリックスを作るみたいなことも含めて、どういう形でどこが重点かということを考えていければ。実施段階における重点をどこに置くかということをこのペーパーの後段階で考えていければということと、あとは場づくりの話。空間の思想を考えるという要素をここに入れていくということ。それからあとは、仕事と産業が重要だが、そこをつなぐための移動も大きなテーマだというのを入れていきたいと思う。

【高木委員】

- ・場をつくるという話に関して、今、東京とか色々なところで場づくりをしている色々な種類のプレイヤーがいらっしゃる。宿を作ったり、別荘みたいなものだったり、カ

フェだったりとか。そういう人たちは、もうすでにコミュニティを持っていて、その中で仕事をし合って、相互に送客し合っていく。だから、ある人が作れば、周辺の人が行くようになるということがある。そういうプレイヤーに如何に富山で、関係人口を広げるような場づくりをしてもらうかという視点は大事。

- ・今、富山でそういう関係人口を作り出すようなプレイをしている人は、どちらかというと、富山にゆかりがあって、どこかに一度行っていただけれど戻ってきたりとか、何かしらの機会に接点を持ったなど、結構偶発的に本人の人生のタイミングによって作られている。もうちょっと県が、こういう人を巻き込んでいこうという風にやっていく方法もあるのでは。タイプEとかは、コミュニティに属している人とかそういうのが好きな人だと弱い気がする。そうではなくて、作る人自体を増やしていくという観点が大事だと思う。宿をつくるにしても、どういう人にそれをプロデュースしてもらえば、どういう人を呼び込めるとか。さっきの自然空間を活かしたロールモデルみたいな場所は日本中にもたくさんあるわけで、そういう人をどんどん呼び込んでいくことによって、結果的にはそういう場が数多く生まれていくことになると思う。そこはもっと戦略的に仕事を作り出してやっていく。この成長戦略会議もそういうものに近いと思うが、そこは意図的に作り出せるのではないかな。
- ・コミュニティに属している人よりも、コミュニティごと連れてこられるような人自体に、富山という編集しがいい素材、景観とか食文化とか色々なものを含めてあるわけで、それを如何に仕事としての機会を提供するかという視点がもっとあってもいい。そういう人を応援するというより、そういう人を招致して、活動を支援する。

【朝比奈委員】

- ・細かい点だが、前回の議論でもあった癒しの環境について、「癒し」とセットで、再生みたいな言葉も入れておくといいのではないかな。癒しもあるが、そこで生まれ変わって行って、再生していくというニュアンスや雰囲気も出した方が、戦略としては都会の人にアトラクトできる部分もあると思う。
- ・高岡と新湊の景色を見た時に、そこを舞台にした映画のイメージで心が洗われるというか、蘇るというか、さらに元気が出てくるというか、そういう雰囲気も非常に感じた。そういう言葉と雰囲気を入れてもいいのではないかな。

【藤井副座長】

- ・癒しの環境の部分に「再生」という言葉が入っていないことについて、以前お見せしたドラフトで、「疲れた人を引きつける」というような表現をしたところ、委員から、「疲れた人を引きつける」ではなくて「リフレッシュしたい人」、「英気を養いたい人」でしょうというご意見も伺った。再生という言葉も活かしていきたい。

【安宅委員】

- ・言いたいことがまだ伝わっていないような気がする。来たくなる場所をつくるんだということを明示する、それこそが戦略であると言いたい。それを富山の都心ではなく、富山が誇る美的空間でつくることが背骨のはずだと言っている。今の書き方では全然足りなくて、それこそが一番抜けている。そういう場を持っている場所をちょっとずつ育てていくことが本当に背骨になるはずで、それは10年単位でかかる。人も作っていかないといけない、合わせて色々なインフラも作り変えていかなくてはいけない、それに合わせて人づくりも変えていかないといけない。そういう一連の活動。ある種、特に富山市が推進してきたコンパクトシティとは対極みたいなところに、もう1個の成長の芽があるということであるし、それがないと人が来る理由がないということを示している。
- ・日本の大都会なり世界の色々な面白い人を連れてこようと思うんだったら、それが非常に重要。そういう場所を育てるということをやらないと多分うまくいかないというのが私のポイント。私が言っている部分は核心を言っているつもりであって、ギミックな話ではない。その視点がなかったら、多分全部失敗すると思う。来る理由がないから。だから、来る場所を作っていくという話をしている。そしてそれは富山の都心ではないということ。

【中尾座長】

- ・昨年、ケルンに行って中小企業の集まりに出た。それらの企業はケルンは水がいいから進出してきただけだと言っていた。ケルン（コロン）の水が化粧水になり、その水は世界一と言っていた。水がケルン経済を支えているとも言っていた。だとしたら、お寿司に加えて日本一の水をもっと打ち出してはどうだろうか。